

キーワード	提言の内容	提言者名・箇所
	分科会での意見概要	分科会名
環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の環境問題に配慮すべきである。 市民レベルでの取組を市民を巻き込んで実施すべきである。 環境問題は、ネガティブに捉えていくのではなくて、経営として成り立つという発想が必要である。 企業間の環境ビジネスとして、自治体は情報発信して、つないであげる努力をする。それをサービスでやるのではなくて、はっきり自治体の収入源として考えていい。 	北川氏(p1) 藤野氏(p7,9) うべ環境倶楽部 (p14~16) 市民提言(p21,24)
	<ul style="list-style-type: none"> ノーマイカー通勤の取組は、企業を巻き込み、恒常的に強力な規制により強行に進めないと効果は上がらないのでは。 環境施策を優先させた「街なかへの公共交通の充実や自転車道の整備」と中心市街地の活性化施策を優先させた「街なかへの一定規模のまとまった駐車場の整備」とは相反する施策であり、どちらを優先させるべきか、又はどう整合性を持たせるのか議論を要する課題である。 	生活環境
	<ul style="list-style-type: none"> 宇部市の先人がどのような取組をしてきたかを知ることができる展示やモニュメントなどが無いと、新しい市民に想いが伝わらないのではないか。 	教育文化
	<p><論点></p> <ul style="list-style-type: none"> 市街地へのマイカー乗入規制と市街地への駐車場の整備とはどちらを優先させるべきか。 自治体が環境産業の発展にどのような関与ができるか。 市民レベルでの環境への取組としては、どのようなものが有効か。 	
コンパクトシティ化	<ul style="list-style-type: none"> 行政の効率化の面からも、郊外へのまちの広がりを抑制し、より市街地に集約する必要がある。 病院を建て替える際も、鉄道の駅や市街地に建替えを促進し、利便性を高めるべきである。 まちのコンパクト化にあわせ、公共交通を見直し、利便性を高めるとともに、自転車道を整備すべきである。 地産地消の取組の中で、市街地に生鮮市場を開設してはどうか。 都市計画で、なるべく空地をつくらずに、隙なく横に並べて建ぺい率の高いまちをつくるということをビジョンとして掲げるべきである。 	藻谷氏 (p5,6) うべ環境倶楽部 (p15) U F O の会 (p18,19) 市民提言 (p21,24)
	<ul style="list-style-type: none"> 市の現状を考えると、街なか居住を強引に進めることは無理があり、既存の各地域の市街地の現状を尊重しながら、都市的な機能は中心部に集約し、公共交通により地域拠点との間の移動サービスを確保するという方向性が適当ではないか。 	生活環境
	<ul style="list-style-type: none"> 宇部市の住宅地は既に郊外に拡散しすぎた。この状況で中心市街地の交通規制を強化しても、逆に人口が流出してしまうのではないか。 公共交通を充実させるとすると、現在の市営バスの経営状況からみて税金というかたちで市民が負担することになるが、それを認めるか。 	産業振興
	<p><論点></p> <ul style="list-style-type: none"> 本市は「コンパクトシティ」を目指すべきか。目指す場合において、どのような規制を実施すべきか。また、中山間地域の小規模で高齢化が顕著な集落(小規模高齢化集落)へは、どのように対応すべきか。 車社会である現状で、公共交通による移動サービスは、どの程度提供することが必要か。 	
地域ブランド	<ul style="list-style-type: none"> 分権時代の今、「無いものねだり」よりも今ある地域資源を掘り起こし、それらを活用し、連携させる創意工夫が必要である。 道州制の導入に備え、山口宇部空港の機能強化を図り、集客力を高める必要がある。 他市や他地域に負けない競争力をつけるため、宇部市の統一されたイメージを作る必要がある。 	北川氏(p2) 藻谷氏(p4)
	<ul style="list-style-type: none"> 産業が振興しないと人は集まらず、まちづくりはできない。景気低迷の現状では、第3次産業とものづくりの第1次、第2次産業の連携が必要だ。 ブランドづくりは、一企業がリスクを負うのではなく、地域を挙げて取り組む覚悟が必要であり、市がバックアップが必要である。 	産業振興
	<p><論点></p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の地域資源のうち、何が本市のブランドにふさわしいか。 	

キーワード	提 言 の 内 容	提言者名・箇所
	分科会での意見概要	分 科 会 名
常盤公園彫刻	<ul style="list-style-type: none"> 常盤公園を観光資源として整備するか、市民のための都市公園として整備すべきか、方向性をもって整備すべきではないか。 彫刻の展示方法として、常盤公園に集約し、来訪者にも楽しみやすいようにするか、現状のように市内各所に置き、周遊可能な環境とする（ただし、ストーリー性が必要）か、どちらの方向がいいのか、議論する必要がある。 市民の彫刻に対する関心が低く、市民意識とのギャップが生じていることから、学校教育でも彫刻や彫刻のまちづくりへの取組について、独自教育として扱ったらどうか。 	生活環境
	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻に市はかなり力を入れ、お金もかけているが評価が低い。現にこれだけの蓄積があるので、もっと彫刻を生かす方法を考えるべき。 ボランティア彫刻清掃の参加者が、掃除をすることで愛着が湧いてきたという感想がある。市民が関わる機会を作ることで関心が高まるのではないか。 彫刻が拡散して、核となるようなものがない。常盤公園を核にできないか。 常盤公園の宣伝周知として、市の玄関となる空港で来訪者にインパクトを与えられるような工夫が必要ではないか。 彫刻展と連携して、学校で彫刻に関する学習を行うなどの取組が求められる。また、子供は、まちに彫刻があることは当たり前だと思いい、特別なものだと思っていない。「どうして宇部に彫刻があるのか」などを分かりやすく伝えていく必要がある。 	教育文化
	<p><論 点></p> <ul style="list-style-type: none"> 常盤公園は、観光資源と市民の都市公園とのどちらの方向で整備していくべきか。 既存彫刻の展示方法として、常盤公園を核とした一箇所集中型と現状の市街地各所への分散型とは、どちらの方が望ましいか。 彫刻事業を市民レベル（学校教育を含む。）のものとして取り組むには、どのような方法が有効か。 	
学生満足度	<ul style="list-style-type: none"> 本市に居住する学生にとって住みやすく、住み続けたいと思わせるような環境を可能な範囲で、整備する方向性も必要ではないか。 	生活環境
	<ul style="list-style-type: none"> 学生の経済効果といえば、広島市は大学移転の影響を受けているようにも見受けられる。学生の移動手段として車の利用が増加する現状もあり、車の利用規制との兼ね合いを考える必要がある。 	産業振興
	<p><論 点></p> <ul style="list-style-type: none"> 学生にとっての暮らしやすさも、まちづくりの方向性や視点として必要か。 学生に視点を当てたときに、どういうまちづくりを進めるべきか。 	
協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域経営の視点で、市民と共に取り組む協働の観点が必要である。 協働には、情報の積極的な公開による「情報共有」が不可欠である。 市民の自助・共助のためのコミュニティを校区単位ではなく、自治会単位で進めるべきである。 市民、企業、専門家、市が継続的にまちづくりについて検討する場が必要。短期、中期、長期計画を、市民に提示し、共有すべきである。 	北川氏(p2) 藤野氏(p8,9) 市の財政を考える会(p12) U F Oの会(p18,19) 市民提言(p22)
	<ul style="list-style-type: none"> 全市民に協働に対する動機付け、意識付けをするために、行政からの協働の場の提供や積極的な声かけを行うべきではないか。 	生活環境
	<p><論 点></p> <ul style="list-style-type: none"> 「協働によるまちづくり」を進めていくためには、どのような手法が有効で、何が障害（問題）となるのか。 「協働」に対する市民の理解と動機付け・意識付けを得るためには、どのような取組が必要か。 基本構想案に「協働」の考え方を盛り込むか。盛り込むとしたら、どう盛り込むか。 	
市財政	<ul style="list-style-type: none"> 一定規模のプロジェクトを実施するに当たり、あらかじめ将来の財政への影響を評価した上で実施を決定するシステムを新たに導入すべきである。（財政リスクアセスメント条例の制定） 	市の財政を考える会(p10.11)
	<p><論 点></p> <ul style="list-style-type: none"> 提言にあるようなシステムを本市において導入すべきか。 プロジェクトの実施に伴う財政的なリスクを評価する場として、どのようなものが適切かつ有効か。 	